

日本国際問題研究所客員研究員
(現代中国研究家)

津上 俊哉

つがみ・としや 東大法卒、通商産業省(現経
済産業省)入省。96年に外務省出向、在中国日本
大使館経済部参事官。通商政策局北東アジア課
長、経済産業研究所上席研究員などを経て独立。
中国問題に通暁する。62歳。



いよいよ深刻化する米中対立

世界が背負う代償大きく

コロナウイルス禍によって、米中関係がさらに深刻
な対立に発展しつつある。日本では、中国は内政面
で果敢な措置で感染を封じ込め、外交面でも「マスク外
交」をしたたかに展開しており、それを率いる習近平
国家主席は判断を誤っては責任転嫁ばかりしているト
ランプ大統領よりずっと賢いといった慨嘆や羨望混じ
りの声を聞く。しかし、その中国には現状を強く危惧し
批判する声がある。初動段階での情報隠蔽を生んだ党
や政府の体質を批判する声は知識層に根強い。海外も
この問題を厳しい眼で見ていることが知られている。



中国の外交当局が米中に戦術
的、特に挑発的な言辭を浴びせ
たり、マスクなどの防護具を寄
贈する際、相手国に見返り条件
を付したりしていることも批判
されている。さらに、果敢な封
じ込めに成功したことは良いと
しても、それを誇って外国
に感謝を要求する、果ては外国
の防疫対策の失敗をあきまう
動的な世論が台頭している。こ
のような危うい言説が横行する
原因は、つぎ考えられる。

一つは対外強硬を是とする
「民意」だ。「ウイルスは米軍
が武漢に持ち込んだのではない
か」と言い放った外交部スポ
ークスマンは、ネットで「英雄」
とたたえられた。そういう自
肯定的な見方は、意外や若者に
多い。物心ついて以来、愛国主
義教育を受け、中国の発展を見
て育った世代だからか。
もう一つの原因は、中国
が最高指導者か。「両方だ」と
見る中国人が多い。民意や上
の顔色を気にするせい、相手国
に顔が向いていないという批判
は説得的だ。そんな外交を「し
たかたに立ち回っている」と評
せるのだからとも思う。
世界がコロナ禍で真正危機に
陥りかけているというのに、今
秋の再選しか眼中にない米国の
大統領と、国内ばかり顔が向
いた中国外交が低次元な争いを

続けている。そんな現状を憂え
る人は米中両国にいるが、どち
らの国でも主流になり得てい
ない。それどころか、この流れは
一層激化しそうだ。

米国では、選挙対策のために
反中感情をあおる人士のせい
で、草の根の反中感情が發酵し
つつある。その変化に乗じて、
事態をさらに悪化させる問題が
二つ進行しつつある。一つはハ
イテク冷戦的な対中輸出規制の
一層の強化の動きだ。世界経済
が真正恐慌に陥りかけている最
中に、こんなことをすれば、中
国以上に西側のハイテク産業が
傷つく結果を招くだろう。

もう一つはコロナ禍を巡る中
国の責任追及だ。トランプ政権
は選挙戦で不利になれば、この
動きを強め、国として賠償を請
求するかもしれない。その時
中国が保有する米国国債に
手を付けようとする可能性はな
いだろうか。そうなったら世界
の金融市場は大混乱では済まな
ないが、選挙のためならやりか
ねない怖さがある。

中国でも世論の一部が「売り
言葉に買い言葉」式に先鋭化し
ている。特に「外国から損害賠
償を求められる恐れ」がナショ
ナリズムをいかに刺激してい
る。世界が一致団結すべき時に
団結できないツケを米中両国だ
けでなく、世界中が負わされる
成り行きにならないか。海外
だけでなく一部中国人もその
ことを危惧している。

(今回は先端ロボティクス財
団理事長の野波健蔵氏です)

日本が失われた30年を
取り戻すにはどうしたら
いいか。日本の強みを生
かして世界の成長点に挑
むことだ。強みとは技術
や社会を成熟させる力。
改善を積み重ねる日本式
モノづくりや日本の安全
社会は世界に認められて
いる。きめ細かな感性を
持つ粘り強い人材がこれ
を支えてきた。成長点と
して東南アジアやアフリ
カ、中南米にポテンシヤ
ルがある。この国々に「日
本式モノづくりの現場輸
出」として売り込む。

モノづくりの現場輸出を

東京大学名誉教授 佐藤 知正

主張

開花。自動車産業のかん
ぱん方式は米国で再発見
され世界を席巻した。日
本の鉄道網やコンピエ
ンスタアなどの流通シ
ステムは世界に誇れる。

いずれも改善の積み上げ
の上に成り立っており、
技術の成熟は日本の得意
技だ。さらに言えば、技
術と社会をともに成熟さ
せてきた。

次の主戦場はサイバー
フィジカルシステム(C
PS)になる。米国はサイ
バーシステム(情報報
知)から攻め降り、日本は
フィジカルシステム(現
場)から攻め上る。難し
いのは現場でのすり合わ
せだ。蓄積ときめ細かな
感性を持つ日本の方が有
利になる。

CPSが主戦場
ロボットは統合の学問
学校を中心に9年間、社
会実装コンテストを実施
してきた。学生が課題を
探し、システムを開発し
て社会に導入、評価を受
けて改善する。課題調査
から事業化までの社会実
装を競う。東京高専はこ
のカリキュラムを完全に
広げている。

学び方を身に付けた人
材は技術や事業の推進方
となる。ここに海外人材
を巻き込み「日本式モノ
づくり現場輸出」や「日
本の安全社会輸出」を加
速させる。東南アジアの
次はアフリカや中南米と
広げていく。技術と社会
を成熟させる力自体が売
り物になる。

さとう・ともまさ 76年(昭51) 東大産業機械博士課程修了。東大大学院情報理工学系研究科教授としてロボット研究に従事。日本ロボット学会会長や日本学術会議ロボット学分会委員長も務める。東京都出身、71歳。

論説室から
コロナ禍での外出自粛
古典を読んで心の体幹筋養おう
モノづくり日本会議 藤元 正

コロナ禍による外出
自粛で、本を読もうと
の声をよく耳にする。
ふだん断片的な情報に
ばかり接していること
もあり、この機にじつ
くり古典文学に親しん
でいかうだろうか。
風雪に耐えた古典は
愛と死、戦争、疫病な
どを通して人生の喜怒哀
楽、矛盾に満ちた人
間の本質、社会のもの
が多い。そうした世界
にしばし浸れば、心の
体幹筋を養うのにも役
立つのではと思う。

長編もいいが、短編
も味わい深い。そこで
エドガー・アラン・ポ
ーの作品を紹介した
い。推理小説の始祖で
あり、恐怖小説や詩人
としての評価も高い。
感染症がらみでは
『赤き死の仮面』。死
に至る疫病を避けて城
に閉じこもる国王が開
いた仮面舞踏会に、仮
装した謎の人物が現れ
て...という話。原題の
「仮面」を表す単語は
Masque(仮面)
劇だが、初出ではM
askだった。こちら
だと現代の衛生マスク
を連想させる。
物語詩の『大鴉』は
彼の代表作。愛しい女
性が亡くなったことを
悲しむ男性の部屋に夜
中、人の言葉をしゃべ
る不気味な黒い鳥が闖
入し、何を話しかけて
も「ネバーモア(二度と
ない)しか言わない。
この鳥は欧米に分布す
る大柄のワタリガラス
。死や悪病を予知す
る不吉な鳥とされる。
実は文中に「bair
n in Gilead(ギレアデの香油)
という一節が出てく
る。薬効を持つ芳香性
の樹脂で、聖書などに
も登場する。この単語
が社名の由来である米
ギリアド・サイエンシ
ズは、新型コロナウイルス
治療薬の「レムデ
シビル」で脚光を浴び
ている。

決して深い読みでは
ないが、こんな小さな
発見があるのも古典な
らでは。どうやらコ
ロナ禍自体も「ネバーモア」
といきたいものだが。

theme 01 | 少子化
フランスとスウェーデンは少子化を克服した。
出生率は回復し、国や企業の活性化につながった。
変わろうとすれば、変わる事ができる。

広告が変わると、社会は変わるか。 JAAA
Japan Advertising Agencies Association

次亜塩素酸水散布に特化! おもな用途・感染症予防等の殺菌・消毒・抗菌・消臭剤散布、農薬散布、散水他

小型・軽量 リーズナブルで導入が容易
直感的で操作が簡単 液剤を広範囲に効率良く散布

ジェットストリーマー JS-C-H 特許第5504059号
ジェットストリーマーは、多数の噴射回と
エアーを用いて霧状の液剤を噴射する製品。
・AC100Vの電源タイプ

ミスター嵐 MR-PH 国内意匠登録第1582025号
コンプレッサーエアーのみで、
ボトルの洗浄液を吸い上げ、
毎分約2000回転する
ロータリーヘッドでパルスミストを発生。
・エアコンプレッサー仕様のハンディタイプ

少量の液剤を細かい粒子にして広範囲・遠方に散布
エジェクター効果で液剤を吸い上げ、エアーで押し出すことで約10~250マイクロメートルの
微粒子を約5メートル前後先まで噴射。

感染症予防/殺菌・消毒のための薬剤散布・塗布
次亜塩素酸・弱酸性・弱アルカリ性液剤にも対応し、小型、軽量で可搬性に優れ電源/エアー源
があれば空港、駅、鉄道車両、航空機内、救急車、学校、病室、ホテル客室など幅広く対応。

GR GA-REW ガリユール <https://www.ga-rew.com/>